

## 2012 年度 第 2 回水工学委員会幹事会 議事録

**日時：** 2012 年 10 月 4 日(木) 12:00～13:00

**場所：** 土木学会講堂

**出席者：** 寶馨 (委員長), 道奥康治 (副委員長), 篠田成郎 (幹事長), 大石哲 (編集幹事長), 今村正裕, 大槻英樹, 鬼束幸樹, 川池健司, 角哲也, 田中規夫, 田中仁 (代理: 渡辺一也), 戸田祐嗣, 中北英一, 藤田一郎, 松山昌史, 渡邊康玄, 浅沼順, 石平博, 泉典洋, 門田章宏, 関根正人, 田中昌宏, 富永晃宏, 二瓶泰雄, 原田守博, 矢野真一郎, 横山勝英[敬称略]

**議題：**

寶委員長からの挨拶の後, 以下の事項について審議が行われた。

### 《報告事項》

1. 第 48 回水工学に関する夏期研修会 (2012 年, 北海道大学) について (代理報告: 篠田成郎 幹事長)
  - ・ A コース 134 名, B コース 89 名の合計 223 名の参加があり, 昨年より人数が増えた。
  - ・ 民間会社が約半数であり, これは例年通り。
  - ・ 参加動機は例年と同様。
  - ・ 満足度は 80% 以上。
  - ・ 参加費が高いなど, 昨年と同様な意見が聞かれた。
  - ・ 収入が多かったなので, 講師謝礼は上限額を適用する。
2. 第 17 回水シンポジウム (岐阜) について (篠田成郎 幹事長)
  - ・ 7 月 26 日 / シンポジウムの参加者: 699 名
  - ・ 7 月 27 日 / 現地見学会の参加者: 45 名
  - ・ 2 日間の合計参加者数: 716 名
  - ・ 一般参加者のうち, 1/3 は動員で, 残り 2/3 は動員以外の人。周知がうまくいった。
3. 全国大会研究討論会 (名古屋大学) について (篠田成郎 幹事長)
  - ・ 「流水型ダムの新しい展開と今後の可能性」と題する水工学委員会の企画による研究討論会が開催された。
  - ・ 参加者は 56 名であった。他の研究会と重なっていたり, 部会が同時開催であったが, まずまずの人数が参加した。
4. 各部会, 小委員会の活動報告
  - a) 水文部会 (神田学 部会長)
    - ・ 報告事項無し。
  - b) 基礎水理部会 (富永晃宏 部会長)
    - ・ 基礎水理シンポジウム 2012 を土木学会講堂にて 12 月 3 日に開催する予定。講師は檜山, 安田, 中山, 木村の 4 名で, じっくりと話し合うことにしている。なお, すでに, 会告済。
  - c) 環境水理部会 (二瓶泰雄 部会長)
    - ・ 樹林化に関するワークショップを 11 月 22 日に神戸大学で開催の予定であり, 河川部会と共催。
    - ・ 流域圏シンポジウムを 12 月 14 日に開催の予定。震災がれきや放射性物質の流域圏に関わる話題。水環境学会ノンポイント委員会・海岸工学委員会と共催。

- d) 河川部会（泉典洋部会長）
  - ・ 樹林化ワークショップを環境水理部会と共催する（前述）。
  - ・ 河川技術シンポジウムを6月6日～7日に開催する。特定テーマは「河川技術の国際化」と「洪水予測」とする予定である。
- e) 地球環境水理学小委員会（中北英一 委員長）
  - ・ 創成プログラムに基づいてアゲールシンポジウムを開催する予定。ここでは、気候変動影響評価を進めやすくなるような情報提供をする。
  - ・ 地球環境シンポジウムが開催された。
- f) 東南アジア河川流域研究小委員会
  - ・ 報告事項無し。
- g) ISO/TC113 小委員会（代理報告：藤田一郎 委員）
  - ・ 藤田委員が深見委員からの報告 PPT を紹介した。
  - ・ 昨年度から土木研究所が組織的に対応を開始した。
  - ・ 2012年5月スイス・ベルンにて TC113 が開催され、土研メンバー他が参加して対応した。
  - ・ 次回2015年の TC113 は日本開催との要請を受けた→恐らく引き受けることになるので、国内調整が必要。
- h) 流量観測技術高度化研究小委員会（藤田一郎 委員長）
  - ・ 流量高度化勉強会を8月10日に神戸大学で開催した、講師は6名。
- i) JHHE 編集小委員会（川池健司 幹事）
  - ・ 今年11月で最終号になる。
  - ・ 掲載コンテンツは①6編の論文、②小松先生のキーノートレクチャー（愛媛での水工）、③全論文の題目と著者リストとなる予定。
  - ・ 土木学会の HP で JHHE 論文の検索が可能かどうか質疑があった。
  - ・ これに関連して、関根委員より、土木学会論文集 B 部門合同編集委員会の動きとして次の報告があった；英文論文集の発刊に向けての作業が進んでいる。来年1月以降に発刊予定。推薦論文の依頼手続きを完了、一般論文も既に4～5編投稿されており、審査中。東日本震災関連の招待論文2編を依頼済み。水工学論文集から推薦論文を選定する。留学生に勧めてほしい。推薦方法は従来通り。

## 5. その他

- a) 2012 九州北部豪雨災害調査団（矢野真一郎 委員）
  - ・ 7月3日および12日～14日の豪雨災害について、土木学会で調査団を編成した。河川災害の基礎調査と発生機構の解明を目的として、筑後川、矢部川、山国川、大野川、白川、菊池川、遠賀川、六角川での調査を実施。
  - ・ 団長は小松先生、総勢34名。
  - ・ 予算を340万円確保した。
  - ・ 成果報告会を開催予定→全体会議を3回、発表報告会を5回実施。
  - ・ 地盤工学会との連携を予定している。
- b) 水理公式集改訂小委員会について（寶馨 委員長）
  - ・ 本日（10月4日）の午前中に改訂小委員会を立ち上げるための検討小委員会を開催。
  - ・ 公式集の構成や内容についてアンケート調査をし、ユーザーの意見を反映させる。
  - ・ 11月頃に各方面に問い合わせ、1月に集約、2月に検討、2013年4月から執筆開始、2014年の出版を目標とする。
  - ・ 二瓶先生を中心に、アンケートの中身を検討する。
  - ・ 議論の内容は書籍・電子出版、分冊化するかなど。
  - ・ 何かアイデアがあれば篠田先生にお寄せ頂きたい。

- c) 水理実験指導書編集小委員会について（藤田一郎 委員長）
- ・ 高専で使う場合が多いと思われるので、高専の先生と若手研究者に委員依頼をかけている。10 月中に小委員会を開催予定。
  - ・ 大学・高専へのアンケートを実施する予定。
  - ・ 実験項目の見直しやデスクトップ実験の新規追加を検討したい。また、コラムも加えたい。
- d) International Symposium on Ecohydraulics 2018 の東京開催について（道奥康治 副委員長）
- ・ 2018 年に生態水理学の国際シンポを東京で開催するので、水工学委員会にも協力してほしい。

## 《協議事項》

1. 第 57 回水工学講演会の開催日程・開催行事（2012 年，名城大学）（原田守博 委員）
  - ・ 閉会式の会場について審議された。
  - ・ 会場として名城ホールを予約しているが金額が高いため、安い講義室に変更してはどうか（原田委員の提案）。
  - ・ 会場からホールに移動して閉会式をやると、参加者が減る可能性があるため、会場でそのまま開催してもよいのではないかと（大石委員ほか）。
  - ・ 講義室に変更することが了承された。
2. 次年度水シンポジウムについて（高知県）（篠田成郎 幹事長）
  - ・ 高知で開催すること、事務局は高知県土木部が担当することは決定した。
  - ・ それ以外の事項についてはまだ決まっていない。
3. 第 49 回水工学に関する夏期研修会（2013 年・海岸工学委員会担当）について（富永晃宏 委員）
  - ・ 2013 年 8 月 26 日～27 日に名古屋工業大学で実施する予定。予備日としては 8 月 19 日～22 または 28 日を考えている。河川・水文テーマは検討中。
  - ・ 内容は来年 3 月までに検討すればよい（篠田幹事長）
  - ・ 北海道で人気のあったソフトウェア関係の実習・講義をいくつか入れてもいいのではないかと（寶委員長）。
4. 第 58 回水工学講演会の開催について（篠田成郎 幹事長）
  - ・ 神戸もしくはそれ以外の関西地区を検討中。
5. タイの水害対応について（寶馨 委員長）
  - ・ 治水計画の国際コンペに提出するために準備中。
6. 水問題の国際研究教育プログラムへの日本からの発信について（寶馨 委員長）
  - ・ 10 月 15 日のシンポジウムについて紹介された。

以上